

## フリービット

3843 東証 1 部

<http://freebit.com/ir/>

2016 年 10 月 5 日 (水)

Important disclosures  
and disclaimers appear  
at the back of this document.

### 企業調査レポート

執筆 客員アナリスト  
森本 展正

[企業情報はこちら >>>](#)

※1 Mobile Virtual Network Operator の略。NTTドコモ <9437>、KDDI <9433>、ソフトバンク (株) のような無線通信基盤を有する事業者から回線を借りて独自の通信事業を行う事業者。

※2 データセンターの機能を仮想的に構築し、インターネット上から利用できる仕組みまたはサービス。

※3 同社が提供するあらゆる事業者が低コスト・低リスク・短期間で MVNO を事業化できるパッケージサービス。

※4 “健康 × IT” によりヘルスケア領域に変革を起こし、次世代の健康管理メソッドを創出していくもの。

※5 “不動産 × IT” により不動産業界に新しいサービスの潮流を起こし、IT を用いて不動産関連サービスを進化させていくもの。

## ■ 第 1 四半期決算はモバイル事業、アドテク事業とマンションインターネットの拡大をリード役に順調に推移

フリービット (株) <3843> は、インターネット・サービス・プロバイダー (ISP) へのインフラ提供や MVNE (Mobile Virtual Network Enabler: 仮想移動体通信サービス提供者) としての MVNO ※1 への参入支援、バーチャルデータセンター (VDC) ※2 を中心とするクラウドインフラの提供、インターネット・サービスにおけるコンサルティング、ソリューションなど様々なサービスを、主に法人向けに提供する。また、グループとしては、個人向けの ISP や MVNO サービス、Web マーケティングサービス、集合住宅向けのインターネット関連サービスなどの事業を手掛ける。また、2015 年にカルチュア・コンビニエンス・クラブ (株) との合弁会社であるトーンモバイル (株) を設立し、独自のスマートフォンサービス「TONE」を提供するなど、スマートフォン事業の拡大に注力中。2016 年 7 月に東京証券取引所市場第 1 部へ指定された。

2017 年 4 月期第 1 四半期 (2017 年 5 月 - 7 月) 連結業績は、売上高が 9,209 百万円 (前年同期比 43.4% 増)、営業利益が 534 百万円 (同 41.9% 増)、親会社株主に帰属する四半期純利益が 104 百万円 (同 17.8% 減) となった。大幅な増収・増益は、1) 「freebit MVNO Pack」※3 やスマートフォン端末販売数の拡大によりモバイル事業が堅調に推移した、2) (株) ギガプライズ <3830> のマンション (集合住宅向け) インターネット・サービスが好調に推移した、3) (株) フルスPEED <2159> グループのアドテクノロジー事業が順調に拡大した、——などを主要因として挙げることができる。にもかかわらず、親会社株主に帰属する四半期純利益が減益を余儀なくされたのは、トーンモバイル (株) の事業拡大による持分法投資損失が増大したことに加え、前期にあった子会社の資産売却による特別利益の反動減があったためだ。

2017 年 4 月期通期計画 (売上高 35,000 百万円、営業利益 2,000 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 250 百万円) に対する第 1 四半期の進捗率は、売上高 26.3%、営業利益 26.7%、親会社株主に帰属する四半期純利益 41.8% となっており、前年同期の実績 (売上高 22.6%、営業利益 19.8%、親会社株主に帰属する四半期純利益 23.0%) をそれぞれ上回った。弊社では、第 1 四半期の進捗率が前期を上回る順調なペースとなっていることに加えて、マンションインターネット、アドテクノロジー事業及びモバイル事業の拡大が第 2 四半期以降も続くと思込まれることから、順調なスタートを切ったと見ている。

同社は 4 ヶ年の中期事業方針「SiLK VISION 2020」で、既存領域のモバイル事業・アドテクノロジー事業の継続成長と、生活領域における 3 つの注力分野である「Health Tech ※4」、「IoT」、「不動産 Tech ※5」の中長期での事業拡大を図ることで、2020 年 4 月期に売上高 500 億円、営業利益 50 億円を目指している。この一環として、9 月に、(株) 光通信 <9435> グループの (株) EPARK の子会社で、薬局総合ポータルサイト「EPARK くすりの窓口」の運営を始めとする薬局業界に特化した様々なサービスを展開する (株) EPARK ヘルスケアを連結子会社化し、ヘルスケア事業へ参入した。また、同社では、グループの技術力や事業リソースを活かした事業拡大や新サービスの提供準備を行うとともに、これからの世界の趨勢を見据えたシード投資等を行っているともしており、今後、「IoT」や「不動産 Tech」の分野での動きが具体化してくると予想される。

## Check Point

- ・ アドテック事業やマンションインターネットサービスの拡大をリード役に第 1 四半期営業利益は 41.9% 増益を達成
- ・ 1Q 業績の進捗率は売上高 26.3%、営業利益 26.7%、親会社株主に帰属する四半期純利益 41.8% で前年実績を上回る
- ・ 光通信グループの EPARK ヘルスケアを連結子会社化し、注力領域の 1 つであるヘルスケア事業へ参入



## 決算動向

### 売上高、営業利益ともに前年同期比で 40% を上回る成長を達成

#### (1) 2017 年 4 月期第 1 四半期連結決算の概要

2017 年 4 月期第 1 四半期連結業績は、売上高が前年同期比 43.4% 増の 9,209 百万円、営業利益が同 41.9% 増の 534 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同 17.8% 減の 104 百万円となり、2 ケタ増収・営業増益を達成した。

#### 2017 年 4 月期第 1 四半期連結業績の概要

(単位：百万円)

	16/4 期 1Q		17/4 期 1Q		
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比
売上高	6,420	—	9,209	—	43.4%
売上原価	4,467	69.6%	6,982	75.8%	56.3%
売上総利益	1,953	30.4%	2,226	24.2%	14.0%
販管費	1,576	24.6%	1,692	18.4%	7.3%
営業利益	376	5.9%	534	5.8%	41.9%
経常利益	262	4.1%	371	4.0%	41.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	127	2.0%	104	1.1%	-17.8%

出所：決算短信よりフィスコ作成

2016 年 10 月 5 日（水）

※ 1 今期から期間損益を適正に反映させるため、NTTドコモの単価変更による精算見込分（従来は精算額を第 4 四半期に一括計上）を四半期ごとに計上する方法へ変更した。これにより、売上原価は前年同期に比べ数百万円少なくなっている。

※ 2 導入実績は 1Q 末、15.5 万個（前期末比 1.35 万戸増加）で、通期目標 19.8 万戸に向けて順調に進捗している。

## ■決算動向

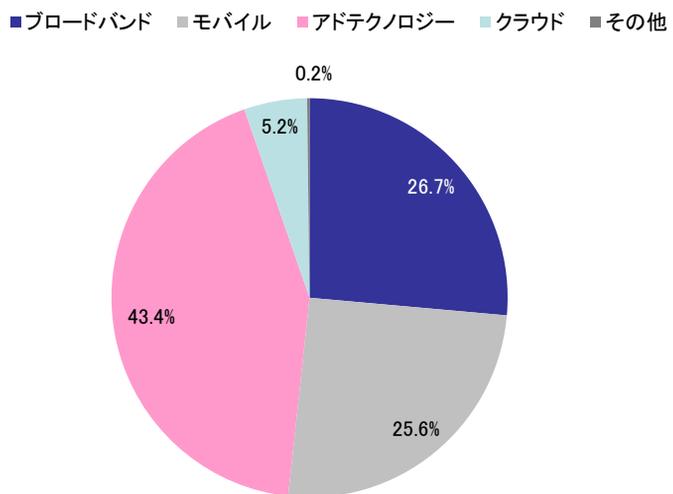
前年同期比で 40% を超える増収確保となったのは、フルスピードグループのアドテクノロジー事業（前年同期比 1,246 百万円増）とモバイル事業（内訳は「freebit MVNO Pack」や DTI SIM 等の売上増 884 百万円、スマートフォン端末売上増 710 百万円）が拡大したことが主要因。一方、売上原価はモバイル事業の売上高増加に伴う帯域仕入費用の増加や固定網のユーザートラフィック増加に伴う通信コストの増加といったネットワーク費用※1 の増加により同 56.3% 増の 6,982 百万円へ増大したために、売上総利益率は前年同期の 30.4% から 24.2% へ 6.2 ポイント低下した。対照的に、販管費は事業規模拡大に伴う人件費やその他費用の増加によって 1,692 百万円へ増加したものの、freebit mobile の会社分割及び固定網の顧客獲得のためのインセンティブ減少等で広告費及び販売促進費が減少したために、売上高販管費比率は 18.4% へ低下した。この結果、営業利益は同 41.9% 増益となり、営業利益率はほぼ前期並みの 5.8% となった。

経常利益は、大幅な営業増益によりトーンモバイルの事業拡大に伴う持分法投資損失の増大をも吸収し、前年同期比 41.6% 増を確保した。にもかかわらず、四半期純利益が減益を余儀なくされたのは、前期にあった（株）ベッコアメ・インターネットの雷門ビル売却に伴う固定資産売却益の反動減があったためだ。

## ○セグメント別の状況

セグメント別の売上構成は、ブロードバンド事業 26.7%（前年同期 38.2%）、モバイル事業 25.6%（同 12.5%）、アドテクノロジー事業 43.4%（42.3%）、クラウド事業 5.2%（7.6%）となっており、アフィリエイトサービスの拡大でアドテクノロジー事業の売上ウエイトが若干拡大したほか、スマートフォン端末と freebit MVNO Pack の貢献によりモバイル事業の売上ウエイトが大幅に上昇した。

セグメント別売上構成比(17/4期1Q)

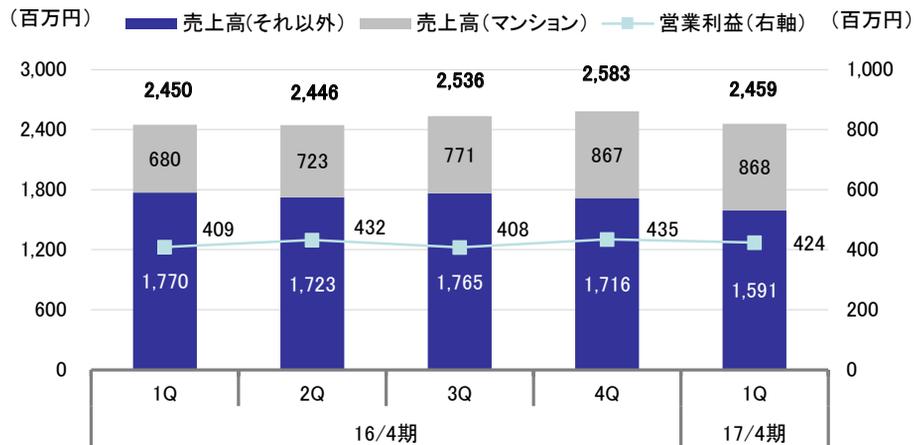


出所：決算短信よりフィスコ作成

### a) ブロードバンド事業

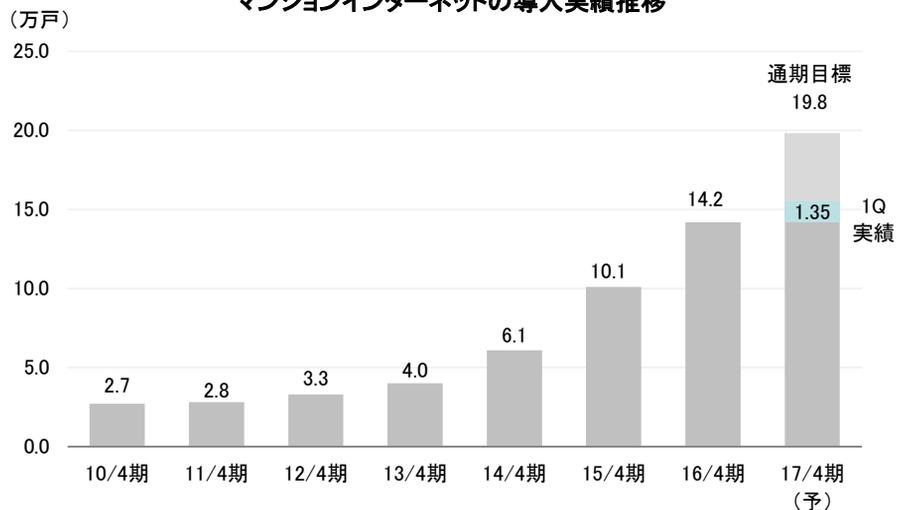
売上高は前年同期比 0.4% 増の 2,459 百万円、セグメント利益は同 3.6% 増の 424 百万円と増収増益を確保した。セグメント利益の増減要因を見ると、既存固定回線の売上減がマイナス要因（前年同期比 118 百万円減少）として働いたものの、（株）ギガプライズのマンションインターネット※2 の売上増による利益増（同 94 百万円増加）や、（株）ドリーム・トレイン・インターネット（以下、DTI）の光コラボ施策が奏功し、個人向けインターネット・サービスが順調に拡大した（同 81 百万円増加）ことなどでカバーした。なお、四半期ベースで見ると、ネットワーク関連コストは増加傾向にあるものの、マンションインターネットの拡大により、営業利益は堅調に推移する格好となっている。

### ブロードバンド事業、売上高・セグメント利益の推移



出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

### マンションインターネットの導入実績推移



出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

### b) モバイル事業

売上高は同 193.1% 増の 2,354 百万円と大幅に増加したほか、セグメント損失も 3 百万円 (前年同期は 51 百万円の損失) へ縮小し、黒字転換が視野に入る格好となった。これは、1) 「freebit MVNO Pack」の提供先の (株) U-NEXT<9418>を始めとする MVNO 事業者によるユーザー獲得が順調に推移し、MVNO 向け帯域卸売事業が順調に拡大した、2) 訪日外人観光客向けプリペイド SIM 販売/レンタルルータが好調 (2015 年 2 月からのプリペイド SIM 累計販売枚数は 70 万枚を突破) となった、3) DTI の個人向けモバイル高速データ通信サービス「DTI SIM」が順調に推移した、4) スマートデバイス事業は、トーンモバイル (株) のスマートフォン端末「TONE m15」を販売する TSUTAYA 等の店舗数が 37 店舗へ増加し、端末出荷が堅調に推移した——などを挙げることができる。

2016年10月5日(水)

※1 フルスピードの2017年4月期第1四半期連結業績は、売上高が4,905百万円(前年同期比39.3%増)、営業利益は238百万円(同27.5%増)となった。

※2 広告主とリンク元となるサイト運営者を仲介する業者。

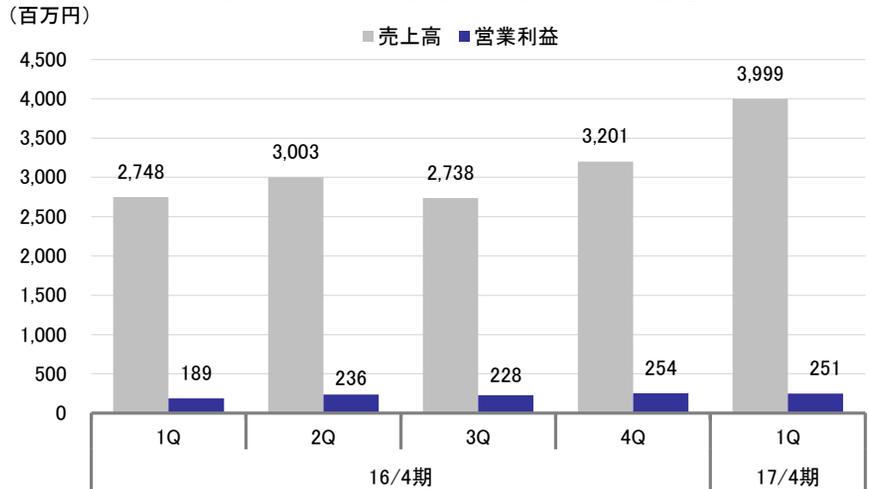
※3 約55万のパートナーサイトをネットワーク化。PCのノウハウを活かし、タブレット・スマホ・モバイルでもサービスを展開している。

※4 クラウドとは、ソフトウェア等をネットワーク越しに利用者に提供する仕組みや、そのデータが蓄積・運用されているデータセンターやサーバー群の総称。このうちパブリッククラウドとは、インターネットから誰でも利用できるようなサービスやシステムを言う。一方、プライベートクラウドとは、大企業などが自社ネットワーク上で利用するためのサービスやシステムを言う。そして、ハイブリッドクラウドとは、その両方を組み合わせたもので、それぞれの長所を組み合わせることでセキュリティ管理やコスト管理を向上させることができる。

### c) アドテクノロジー事業

売上高は同45.5%増の3,999百万円と大幅な増収となった。一方、セグメント利益は(株)フルスピードの貸倒損失引当金の繰入額増加というマイナス要因があったものの、同32.4%増の251百万円と大幅な増益を確保した。(株)フルスピード※1は、注力している独自広告運用総合プラットフォーム「AdMatrix」やスマートフォン向け動画アドネットワーク「PolymorphicAds」等が順調に拡大した。さらに、(株)フォーイットは、アフィリエイト・サービス・プロバイダー(ASP)※2として独自のアフィリエイトサービス「アフィリエイトB」※3の提供に注力したことにより、既に優位性を築いている美容、ヘルスケア業界へのサービス提供に加えて、不動産、金融などの新たな業界へのサービス提供が進んだことにより、事業規模、収益規模が一段と拡大し、セグメント利益の増加に大きく貢献した。

#### アドテクノロジー事業 売上高・セグメント利益推移

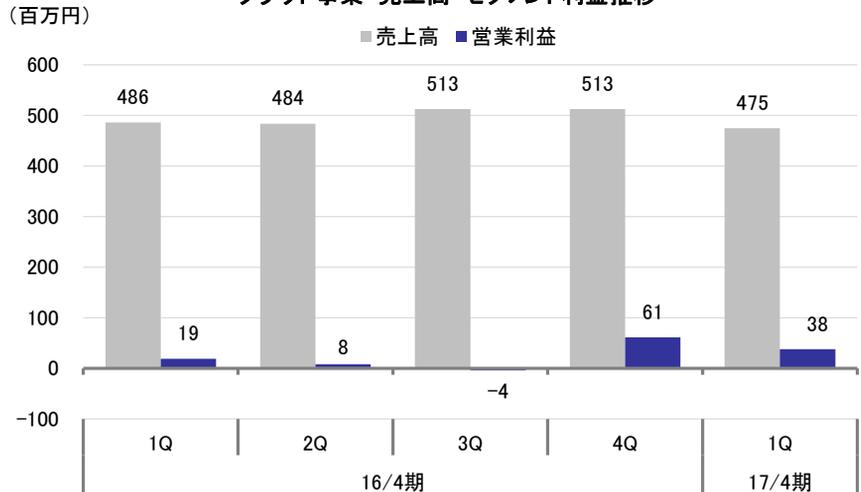


出所:決算説明会資料よりフィスコ作成

### d) クラウド事業

売上高は同2.3%減の475百万円と減収ながら、セグメント利益は同97.2%増の38百万円と大幅な増益となった。ハウジングやホスティングなどレガシーサービスの減少による売上、利益減が続いているものの、ハイブリッドクラウド※4商材の販売拡大によりカバーし、増益を確保した。

#### クラウド事業 売上高・セグメント利益推移



出所:決算説明会資料よりフィスコ作成

## 注力領域の 3 分野の 1 つであるヘルスケア事業へ参入。事業拡大戦略が着実に進展

### (2) 2016 年 5 月以降の取り組みと 2017 年 4 月期業績見通し

#### a) 2016 年 5 月以降の取り組み

今年 6 月に発表した 4 ヶ年の中期事業方針「SiLK VISION 2020」で、既存の好調事業「モバイル」、「アドテクノロジー」領域の成長に加えて、新規事業を有する「生活革命」に関連する「Health Tech」、「IoT」、「不動産 Tech」の 3 分野を注力領域とする事業拡大戦略を展開することで、2020 年 4 月期に売上高 500 億円、営業利益 50 億円を目指している。

その注力 3 分野の 1 つである「Health Tech」の分野で、9 月に、光通信グループの (株) EPARK の子会社で、薬局総合ポータルサイト「EPARK くすりの窓口」の運営を始めとする薬局業界に特化した様々なサービスを展開する (株) EPARK ヘルスケアの株式を取得、連結子会社化し、ヘルスケア事業に参入した。これは、1) 同社グループが保有するアドテクノロジーを活用したマーケティングノウハウやアフィリエイトネットワークと、(株) EPARK の保有する各種データベースを組み合わせることで、顧客満足度の高いヘルスケア関連サービスを提供する、2) 同社が保有する特許技術やインターネット・サービスのインフラを活用し、全国 57,000 店を超える規模の調剤薬局のネットワーク化のほか、ヘルスケア領域における新たなプラットフォームを構築する、——などを狙ったものと考えられる。

一方、マンションインターネット分野では、子会社の (株) ギガプライズが 7 月から (株) U-NEXT が提供する動画配信サービスを附帯するインターネット接続サービスの提供を開始した。加えて、年間数万戸の新築賃貸物件を供給する大手建設不動産グループ管理会社とインターネット接続サービスの OEM 提供で包括契約を締結、そのグループ管理会社が供給する 7 月の新商品から順次導入が開始されている。

同社では、グループの技術力や事業リソースを活かした新サービスの提供準備を行うとともに、これからの世界の趨勢を見据えたシード投資等を行っているとしており、今後、「IoT」や「不動産 Tech」の分野でも動きが具体化してくると予想される。

#### b) 2017 年 4 月業績見通し

第 1 四半期実績の通期計画 (売上高 35,000 百万円、営業利益 2,000 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 250 百万円) に対する進捗率は、売上高 26.3%、営業利益 26.7%、親会社株主に帰属する四半期純利益 41.8% となっており、前年同期の実績 (売上高 22.6%、営業利益 19.8%、親会社株主に帰属する四半期純利益 23.0%) をそれぞれ大幅に上回る格好となっている。

## 第1四半期業績の進捗率と通期会社計画の概要

(単位：百万円)

	16/4 期			17/4 期				
	1Q 実績	売上比	進捗率	1Q 実績	売上比	前年 同期比	進捗率	計画
売上高	6,420	-	22.6%	9,209	-	43.4%	26.3%	35,000
ブロードバンド	2,450	38.2%	24.5%	2,459	26.7%	0.4%	22.3%	11,041
モバイル	803	12.5%	16.0%	2,354	25.6%	193.1%	27.9%	8,451
アドテクノロジー	2,748	42.8%	23.5%	3,999	43.4%	45.5%	28.4%	14,099
クラウド	486	7.6%	24.3%	475	5.2%	-2.3%	25.0%	1,899
営業利益	376	5.9%	19.8%	534	5.8%	41.9%	26.7%	2,000
ブロードバンド	409	16.7%	24.3%	424	17.3%	3.7%	28.4%	1,493
モバイル	-51	-6.4%	-	-3	-0.1%	-	-	92
アドテクノロジー	189	6.9%	20.9%	251	6.3%	32.4%	22.0%	1,110
クラウド	19	4.0%	22.7%	38	8.0%	97.2%	48.8%	78
経常利益	262	4.1%	18.1%	371	4.0%	41.6%	24.7%	1,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	127	2.0%	23.0%	104	1.1%	-17.8%	41.8%	250

注：セグメント利益の売上比はセグメント利益率

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

弊社では、第1四半期の進捗率が前期を上回る順調なペースとなっていることに加えて、1) マンションインターネット分野で第2四半期以降大手建設不動産グループ管理会社との包括契約の効果が本格的に貢献してくると期待され、同分野の順調な推移が予想される、2) フルスピードの第1四半期の貸倒引当金の計上によるマイナスはあるが、アドテクノロジー事業の堅調が続くと見込まれる、3) トーンモバイルの事業拡大によりスマートフォン端末事業が拡大することやMVNO向け帯域卸売事業が順調に推移することでモバイル事業の拡大が続くと予想される、——ことなどから、順調なスタートを切ったと見ている。

フリービット

3843 東証1部

<http://freebit.com/ir/>

2016年10月5日(水)

#### ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ